

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3	2	選択
担当教員			
南本 長徳			
金1			
添付ファイル			

科目の概要	<p>教育は、人間の誕生から始まり、その成長・発達について考えるとところから生まれる。人間は、他の動物と異なり、知的能力、創造的能力、芸術的能力、身体的能力、社会的能力を、後天的に獲得していくといった特徴を備えている。つまり、後天的に様々の能力を獲得していくとは、他者やまわりの環境からの影響を強く受け、能動的に影響を受容していく。こうした人間の成長・発達の特徴ゆえに、人間にとって取り巻く環境は重要であり、その重要性の意味を不断に考える必要に迫られることとなる。</p> <p>教育社会学は、人間の成長・発達を一つの軸とし、まわりの環境との相互作用（影響関係）を考えることを中心（研究の対象）とする学問の1つの領域である。</p> <p>本授業では、はじめに、教育社会学がどのように人間の成長や発達を考えるか、社会に生起してくる教育現象をどのように把握・理解しているかという解説から始める。そして、大きく3つのパートに分けて講義を進めていく。第1に、「家庭」や「家族」と呼ばれる人間が誕生して最初に出会う環境、また、「地域社会」という子ども時代に遊びや生活を共有する親密的ともいえる空間を取り上げて、その教育的な意味の理解を進める。第2に、近代以降、発展を遂げてきた「教育空間」である学校を取り上げて、学校教育の様々な特徴を捉えて、人間の成長・発達にとっての学校の持つ教育機能についての理解を図る。第3に、学校と社会との接続の問題、学校と社会とのかかわりの問題をとりあげて、教育の社会に果たす役割を教育社会学の学問的知見に基づきながら、基礎的・理論的な理解を図っていく。</p>
授業の内容	<p>第1回 教育社会学という用語（概念） 教育社会学は教育をどのように把握し、理解するか、その意義や特徴について解説する。</p> <p>第2回 教育社会学の存立条件 わが国社会で、教育社会学という学問は、教育と社会の関係を考える上で、どのような役割を果たしてきたのか。</p> <p>第3回 家族と子どもの成長・発達 家族の中で子どもの成長・発達と家族の変容について説明する。</p> <p>第4回 家族の子育て機能とは 家族は子どもの成長・発達にどのような機能を担っているか。</p> <p>第5回 子どもの生育環境としての地域社会 地域社会は子どもの成長にどのような影響を及ぼしているのか。</p> <p>第6回 社会の変化の中で地域社会に求められるものとは 地域社会の都市化、過疎化、高齢化が及ぼす子育て環境の変化の意味について説明する。</p> <p>第7回 学校教育の成立と教育環境の変化 わが国における学校教育の成立と就学率・進学率の上昇の意味を説明する。</p> <p>第8回 学校教育の成立と職業としての教職の誕生 教師という職業集団は、わが国においてはどのように誕生したのかについて説明する。</p> <p>第9回 学校教育と進学の問題 進学という問題は、わが国の学歴の捉え方と深く関わり、多大の影響を及ぼし続けているが、社会と学校の関係性という点から、学校教育と進学の問題について説明する。</p> <p>第10回 社会の変化と教育における平等の理念の浸透 教育における「平等の理念」は、わが国社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて説明する。</p> <p>第11回 社会の変化と生涯学習の理念の浸透 「生涯学習の理念」はわが国の教育の考え方にどのような変化をもたらしてきたかについて理解を図る。</p> <p>第12回 わが国における学校教育改革 2000年前後からのわが国の学校教育における制度面・教育内容面の改革を中心に説明する。</p> <p>第13回 学校と地域の連携 学校は地域との連携をどのように理解しているかについて説明する。</p> <p>第14回 学校安全とはどのようなことか 学校は事故や災害にどう対処していくことがのぞまれているかについて理解を図る。</p> <p>第15回 講義内容の到達点と総括 授業内容の振り返りとまとめ</p>
学習到達目標	<p>わが国の社会変化が教育にどのような影響を及ぼしているかを前提に、社会と教育の関連性をよく考えて、わが国の教育課題に焦点を当てながら、わが国の教育課題や問題、それに対応する教育政策等を理解し、教育に関する教育社会学的な視点から理解を深め、教育社会学の専門的知識を習得できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭や地域社会、学校を巡る教育の課題や問題にはどのようなものがあるかを理解できる。</li> <li>2. 学校教育の成立、その発達がわが国の教育の状況に及ぼした変化を理解し、歴史的・時系列的に学校教育の発展について理解することができる。</li> <li>3. わが国の教育政策の近年の動向を踏まえながら、教育制度面の改革、教育内容面の改革について、変化する社会とのかかわりを踏まえて理解することができる。</li> </ol>

	4. 地域と学校との連携や協働について学び、地域の中の学校の現状や今後の在り方を考え、学校における事故や事件、安全上の各種の課題を理解し、地域社会の中の学校という視点から子どもの安全、安心を保障できる考え方や知識を習得することができる。
授業の方法	社会と学校教育の関連や学校教育の社会的役割を理解することを授業の中心課題に置きながら、(集団) 討議の時間や小レポートの作成の時間を設定して、講義内容に関する興味や関心を高め、関連した基礎的・基本的知識の習得を促進させる。特に、第13回。第14回の地域と学校の連携、学校事故、学校災害等の危機管理の学習課題を取り上げる際には、グループ・ディスカッションや発表を取り入れて、理解を深めるように工夫する。
成績評価の方法	学期中の「試験」が80%、「小レポート」が10%、授業中の「発表」が10%
教科書・テキスト	
参考書	南本長穂・山田浩之 編 『入門・子ども社会学』 ミネルヴァ書房
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	(予習・復習の時間 各90分程度) 1回 復習：本日の説明の中心である、「教育社会学」の視点から教育と社会のかかわりについて、自分の興味のある事柄について、新聞等の身近な情報を利用し、考え、理解を深める。 2～14回 予習：次週学ぶ内容項目をよく調べ、学ぶ内容の重要な点をおさえておく。 復習：授業内容に関連する重要用語の意味をよく理解し、自分で説明できるレベルに到達する。 15回 予習：これまでの14回の講義で学習した教育課題や問題、そして、考えていく際のキーワードになった重要な専門的教育用語の使い方を復習し、理解を定着させる。 復習：わが国における学校教育の発展を踏まえて、学校と社会がどのように結び付き、時にはその結び付きが教育問題を生み出しているかを概念的に理解できるまで、学習を深める。
履修上の留意事項	予習と復習に取り組み、教育社会的な考え方で教育を理解できる思考様式に習熟してください。授業中は授業内容に関係のない私語は慎んで下さい。
オフィスアワー	授業終了後に教室で行います。
実務経験	特になし。
その他	